

「要精密検査」となったら必ず精密検査を受けましょう

要精密検査という結果が出て、がんである場合と、そうでない場合があります。必ず精密検査を受けて確かめてください。以下に標準的な精密検査の概要についてご紹介します。

胃がん検診の精密検査

【胃内視鏡検査】

胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。小さな病変を直接見つけることや、病変の一部をつまみとり、細胞を採取してがんかどうかを調べる検査を行うことができます。

肺がん検診の精密検査

【胸部CT検査】

X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

【気管支鏡検査】

気管支鏡を口から気管支に挿入して、病変が疑われた部位を直接観察します。必要に応じて細胞を採る検査をすることがあります。

大腸がん検診の精密検査

【全大腸内視鏡検査】

内視鏡を挿入し、直腸から盲腸までの大腸の全部を撮影し、がんやポリープなどの病変がないかを確認します。必要に応じて、大腸の粘膜の細胞を採り悪性かどうか診断することがあります。

【大腸X線検査】（大腸内視鏡との併用法）

大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸をふくらませて、大腸全体のX線写真を色々な方面から撮影します。

★便潜血検査で要精密検査となった場合は、便潜血検査以外で検査をすることが適切とされています。

子宮頸がん検診の精密検査

【HPV検査】

子宮頸がんの発生に関係するヒトパピローマウイルスの感染の有無を調べます。

【コルポスコープ、組織診】

コルポスコープは、子宮頸部の粘膜表面を拡大し、細かい部分を観察できる医療機械です。観察すると同時に粘膜の組織を採取して、悪性かどうかの検査をします。

乳がん検診の精密検査

【マンモグラフィ】

乳房を片方ずつプラスチックの板で挟んで撮影します。通常の検診と同じ検査方法ですが、病変が疑われた部位を詳しく観察するため、多方向から検査します。

【乳房超音波検査】

超音波を体の表面に当て、その超音波が体の中で反射する様子により、体の断面をみる検査です。

【穿刺吸引細胞診、針生検】

しこりなど疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して中の細胞や組織を採取し、調べます。

令和8年度

中央公民館・保健福祉センターで受ける

要予約！



集団検診のお知らせ



※医療機関で受ける個別検診は、6月末以降から各医療機関に直接お問い合わせください。
詳しくは、がん受診券に同封されている **ピンク色** のチラシをご覧ください。

集団検診の受け方

集団検診期間：令和8年6月～令和8年12月

STEP1

予約する

下記①～④の方法でお申し込みください。

STEP2

受診する

検診1週間前に案内が届きます。

STEP3

結果を確認する

結果は約1ヶ月後に郵送で届きます。



申し込み開始日 **5月19日** から WEBは5月18日⑨午前9時から申込可能！

● 申込方法：①～④のいずれか

① TEL **0596-52-7116**
(平日 9:00～16:30)

② FAX 0596-52-7137

③ 役場住民ほけん課窓口
(平日 9:00～16:30)

④ WEB 申込フォーム

<https://logoform.jp/form/YEKu/1401198>

※ WEB での申し込みは 24 時間 OK



● 申込の際は、以下についてお伝えください。

- ① ご希望の検診名・日時
- ② 氏名・住所・生年月日・つながりやすい電話番号
- ③ WEB では、メールアドレスの入力も必要です！

● 託児（お子さま1人につき300円）希望の方は検診日の1週間前までにお申し込みください。

対象となる検診は **5月中旬頃** お手元に届く、

「令和8年度 明和町がん検診・歯周病検診等受診券」

をご確認ください！

がん受診券はこのようなお送りしています！

- ① 過去3年間に町のがん検診等を受けられた方
- ② 明和町国民健康保険の被保険者の方
- ③ 限定優待対象の方

※受診券は、がん検診や歯周病検診等受診される際に必要です。大切に保管し、ご利用ください。

●がん受診券 **新規発行** をご希望の方

対象年齢に該当する町民の方であればどなたでも発行できます。

電話またはWEBフォームより申請してください。

住民ほけん課 ☎0596-52-7116
<https://logoform.jp/form/YEKu/1400051>



申請開始日
5月18日から

令和8年度 集団がん検診等日程表

検診会場：中央公民館、保健福祉センター

検診種類 (自己負担金)	日程 時間	6月	7月	7月	7月	9月	9月	10月	10月	10月	11月	11月	12月
		26日 (金)	13日 (月)	14日 (火)	30日 (木)	15日 (火)	28日 (月)	7日 (水)	18日 (日)	19日 (月)	20日 (金)	21日 (土)	16日 (水)
胃がん バリウム (1,500円) 40歳以上	8時～9時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9時～10時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
肺がん※ (500円) 40歳以上	8時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大腸がん (500円) 40歳以上	8時～11時 ※容器回収時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
子宮頸がん (1,500円) 20歳以上	9時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13時～15時												
乳がん エコー (1,500円) 20歳以上	9時～10時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13時～15時												
乳がん マンモグラフィ (1,500円) 40歳以上	9時～10時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13時～15時												
前立腺がん (500円) 50～74歳	8時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
肝炎ウイルス (無料) 40歳以上 ※今まで受けたことのない方	8時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
骨粗しょう症 (500円) 昨年度 40,45,50,55,60,65,70歳の女性	8時～11時	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国保特定健診/ 後期高齢者健診 (無料) 40～74歳/75歳以上	8時～9時		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9時～10時		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10時～11時		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
わかもの健診 (身体測定、血液検査等) (1,500円) 20～39歳	8時～9時	○									○	○	
	9時～10時	○									○	○	
	10時～11時	○									○	○	

↑国保特定健診のみ

※喀痰細胞診検査は国の指針改正により、令和8年度から実施いたしません。ご了承ください。

各種がん検診を受診されるみなさまへ

がん検診は、がんを無症状のうちに早期発見・早期治療し、がんで亡くなることを防ぎます。その一方で、がん検診には不利益もあります。

がん検診の利益

- ① 標的とするがんによる死亡を防ぐこと
- ② 早期発見により治療が軽度ですむこと
- ③ 本当になんかいない人が検診で「異常なし」となり安心して生活できること

がん検診の不利益

- ① 偽陰性 実際はがんがあるのに精密検査が不要と判定されること
- ② 偽陽性 実際にはがんがないのに精密検査が必要と判定されること
- ③ 過剰診断 生命予後には影響しないがんを発見すること
- ④ 偶発症 検診や精密検査での医療行為による合併症
例：バリウムの誤嚥や検体採取の際の出血など

国が推奨するがん検診の一覧

種類	検査項目 (問診含む)	受診間隔	対象年齢
胃がん	胃部 X線検査*1 または胃内視鏡検査	2年に1回	50歳以上
大腸がん	便潜血検査	1年に1回	40歳以上
肺がん*2	胸部 X線検査	1年に1回	40歳以上
乳がん*2	マンモグラフィ	2年に1回	40歳以上
子宮頸がん	細胞診	2年に1回	20歳以上

*1 当分の間、胃部X線検査については40歳以上、1年に1回の実施も可とされています。
*2 肺・乳がん検診の問診では必ずしも医師が対面で聴取する必要はなく、自記式の質問用紙に記入することで問診の代わりとしてよいことになっています。

〈出典〉厚生労働省「職域におけるがん検診に関するマニュアル」

2024年 部位別がん死亡数の順位 (全国)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

〈出典〉国立がん研究センターがん情報サービス ganjoho.jp

喫煙と肺

喫煙者は非喫煙者と比べて男性では約4倍、女性では約3倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどそのリスクが高くなります。

受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを2～3割程度高めます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

継続して、定期的になんか検診を受けましょう。
症状がある場合、検診の機会を待たずに医療機関を受診しましょう。